



2024年3月期(83期)第2四半期
中間決算説明資料

2023年10月31日

石井食品株式会社
(東証スタンダード:2894)

イシイの
本気は、
裏に出る。

価格改定効果に加え、7-9月のお弁当需要を捉え増収増益。

当期は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和が一層進み、経済活動の正常化による個人消費の持ち直しが見られました。しかしながら、原材料価格やエネルギー価格の高止まりは続いており、先行き不透明な状況が継続しております。

このような中、昨年10月に実施した一部商品の価格改定により販売単価が上昇しながらも売り場を確保できていること及び各種プライベートブランド商品も堅調に推移しております。

また、これまで苦戦していた夏場のお弁当需要の変化に着目し、子ども向けでは学童保育や部活動など長期休暇中であってもお弁当ニーズがあること、大人向けではあらゆる消費財の価格高騰を受け外食ランチに替わりお弁当ニーズが高まっていることを捉え、これらを営業活動に反映した結果、売上高は増加いたしました。

コスト面では、生活防衛等の観点から2年続けてベースアップを実施したことによる人件費の増加がありますが、高騰していたエネルギー価格が一段落したこともあり、結果として前年同期比で増収増益となりました。

2024年3月期第2四半期-連結業績

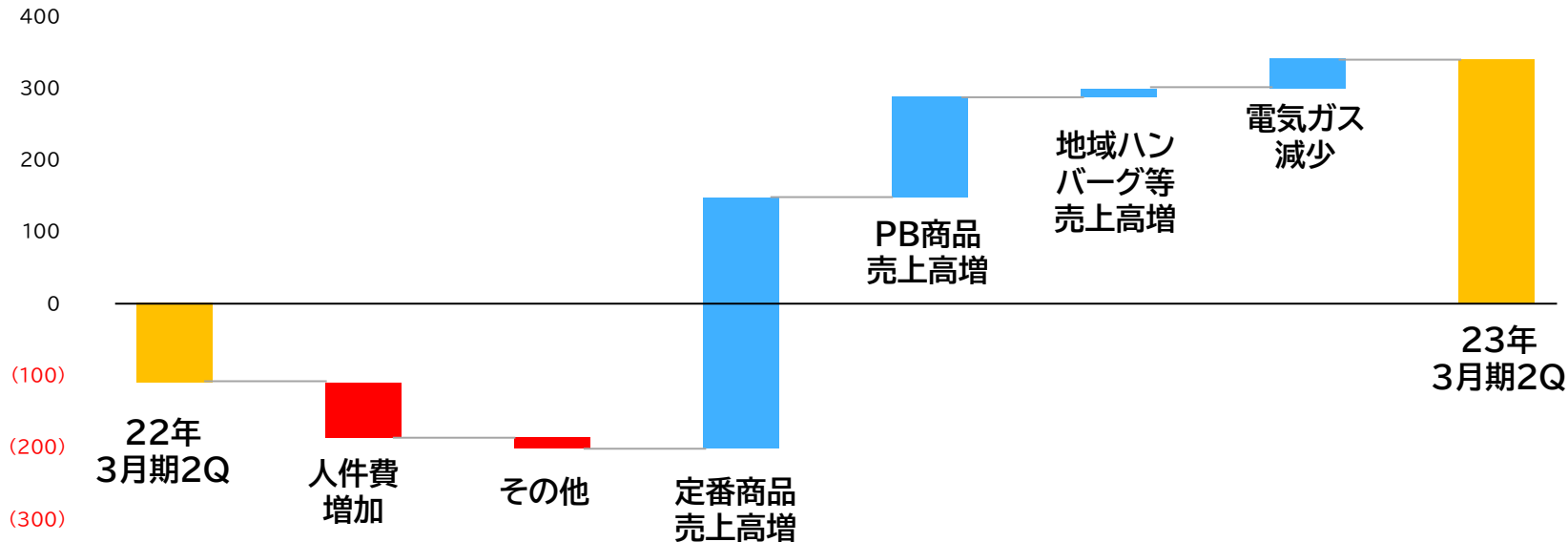
- (1) 売上高は51億円で6.3億円の増収。
- (2) 営業利益は3.3億円で4.5億円の増益。
- (3) 当期純利益は1.9億円で、前期1.1億円の純損失から黒字転換。

(単位:百万円)

	23/3期2Q	24/3期2Q	前差
売上高	4,519	5,152	+632
売上総利益	1,275	1,838	+563
営業利益	△111	338	+450
経常利益	△105	357	+462
当期純利益	△113	190	+304
EBITDA	△19	437	+457

2024年3月期第2四半期-営業利益

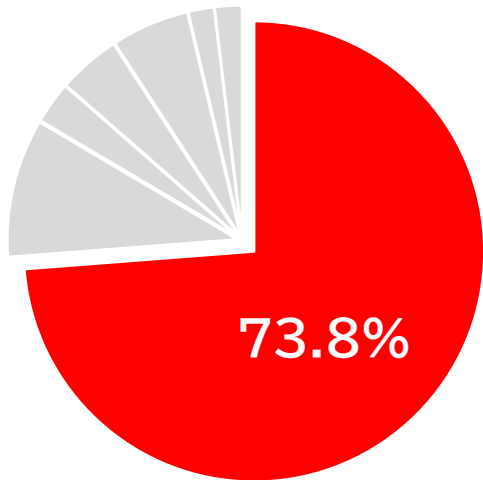
- (1) 前年同期の営業利益△1億円から、今期は3.3億円と4.5億円の増益。
- (2) 従業員のインフレ対応のため、2期続けてのベースアップを行った影響により、人件費増。
- (3) お弁当需要の的確な捕捉により売り場を活性化。価格改定効果もあり、大幅に増収。
- (4) 電気・ガス等のエネルギー費は昨年の高騰から一段落、使用量削減にも取組み、減少に転じた。



2024年3月期第2四半期-商品群別実績

ミートボール

(単位:百万円)



	23/3期2Q	24/3期2Q	前年比	前差
売上高	3,210	3,810	118.7%	+600

■トピックス

- 例年苦戦していた夏場への対応として、子ども向けでは学童保育や部活動、大人向けではインフレに起因する外食からお弁当への切替えなど、需要の変化を捉えこれを営業活動に反映したことにより、価格改定後の売り場確保・活性化を継続。
- 2023年3月に発売を開始したセブンプレミアム「イシイのミートボール」などプライベートブランド商品も堅調に推移。



2024年3月期第2四半期-商品群別実績 地域ハンバーグ

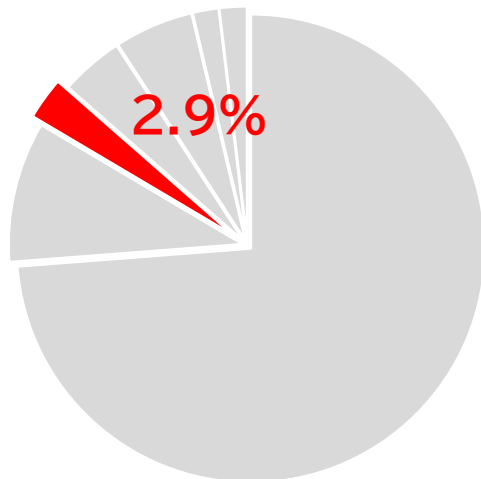
(単位:百万円)



	23/3期2Q	24/3期2Q	前年比	前差
売上高	132	151	115.0%	+19

■トピックス

- 新規取扱店拡大の取組み及びミートボール等主力の定番商品と併せての提案営業による商品導入の推進により、売上高増加。
- 地域交流イベントには生産者とともに参加し、ファンコミュニケーションを推進。
- 各地域の旬の素材を活かしたハンバーグシリーズとして、年間通して楽しめること及び地域活性化の取組みとしての広告宣伝を実施。



2024年3月期第2四半期-財務状況

(1) 純資産は約7億円増加。自己資本比率は40%台を維持。

(2) 営業CFは増収増益を受けてプラスに転換(期末日が銀行休業日だった影響額は約3億円)。

(単位:百万円)

	23/3期2Q	24/3期2Q	前差
現預金等	1,660	2,473	+813
資産合計	5,941	7,718	+1,776
有利子負債	1,733	1,931	+197
負債合計	3,510	4,606	+1,095
流動比率	117.9%	116.2%	△1.7%
純資産合計	2,431	3,112	+681
自己資本比率	40.9%	40.3%	△0.6%
営業CF	△94	755	+850
投資CF	△204	△169	+35
財務CF	△63	△56	+6

2024年3月期-通期業績予想の修正

- (1) 売上高が計画を上回る見込みであること及び原材料価格やエネルギー価格の高止まりは継続しているが、期初見込みよりは抑えられる目途がたったことから、営業利益以降の予想値は前回予想を上回る見込み。
- (2) 下期は、ソフトウェアや製造設備の一部刷新等、これまで行ってきた投資の減価償却がスタートすること及び基幹工場である八千代工場の大規模修繕を実施予定のため、下期の営業利益は前年を下回る予想。
- (3) 今後もPB商品をはじめとした下期の販売動向など様々な要因で変動する可能性があるため、業績予想について修正が必要となる場合は速やかに開示予定。

(単位:百万円)

	23/3期 (実績)	24/3期 (前回予想)	24/3期 (今回予想)	前回予想との差
売上高	9,549	9,800	10,300	+500
営業利益	219	55	350	+295
経常利益	256	90	390	+300
当期純利益	308	45	210	+165

本資料は情報提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
本資料(業績予想を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいて弊社が作成したものでありますが、実際の業績等は、さまざまな要因により大きく異なることが起こります。